

会長に就任して

京都大学理学研究科・理学部数学教室同窓会が発足してから3年余りが経過いたしました。発足以来、会長として当会を導いてきて下さいました渡辺信三先生は、2017年度末（2018年5月31日）をもって会長を辞されました。この間先生が負って下さいましたご労苦に改めて心から感謝申し上げます。

渡辺先生の跡を継いで、私、井川満（1965年3月 学部卒）が会長に就くことになりました。以前にも記したことですが、西田吾郎氏が中心となって同窓会設立の準備活動は開始されましたが、その直後に西田氏が逝去されるという思いもかけない事態になり、ただ西田氏の助手として準備活動に加わっていた私が、西田氏の跡を継がざるを得なくなってしまいました。今回も、その折に似た思いを抱いております。

そうではありますが、微力ながらも力を尽くして任を果たしてまいる所存です。何よりも活動を始めた同窓会の火を絶やす事なく、細やかであっても活動を継続し、卒業生の皆さんに同窓会を広く認識していただき、活動に力を合わせていただけるよう工夫したく思います。

昨年度の総会で話が出ました、当同窓会、同窓会誌および総会行事などの愛称選定を進めたく思います。しかしこれらの愛称は、一旦定まると余程の事が無い限り会が存在する限り使用されるものでありますので、愛称の募集や選定は慎重に進めなければならないことです。

もう一つ願っておりますことは、支部の創設であります。京都は我々が学び、青春時代を過ごした大切な場所ではありますが、卒業生が多数京都に集うのは中々難しいことでもあります。各所に支部が出来、夫々の支部で活動がなされるようになり、同窓会本部としての「京都」はそれらの活動を繋ぐ要として存在するのが良いのでは考えております。

発足に際して、当会が目指すべき活動について、ご提言を頂きました。それらを忘れてはいる訳はありませんが、実現するにはどうしても資金や人手の問題が有り、現在においてはどう手を付ければ良いのか、見通しすら得られていないのが実際でございます。当会の足腰がもっと丈夫になるまで時間を頂かざるを得ないと思います。

幸い、重川副会長を始めとする役員の皆様、また事務局の皆様という強力な仲間との協力を頂きつつ、京大数学同窓会のために力を尽くしていきたく存じております。

これまでと変わらず、皆様のご協力のほどお願い申し上げます。

会長 井川 満